

【技術分類】 3-3-12 セントラル空調／ダクト工事／保温施工

【技術名称】 3-3-12-1 保温材取付（角ダクト）

【技術内容】

一般事項として、ダクトの保温施工の前にフランジ部の締付け及びシールが十分であることを確認することが必要である。

空調用ダクトの保温には一般にグラスウール、またはロックウールの保温板を用い、鋸でダクトに固定する。角ダクトの鋸は、原則として下面、側面、上面とも、300mm 角の面積に 1 個以上とする。消音の目的で内張りを鋸で行う場合は、1m² 当たり 30 本（約 18cm 間隔）が標準である。

鋸の取付は接着、またはスポット溶接等で行うが、接着の場合は接着剤の乾燥硬化までの養生時間が必要なので、保温施工の 24 時間以上前に取付けておく。

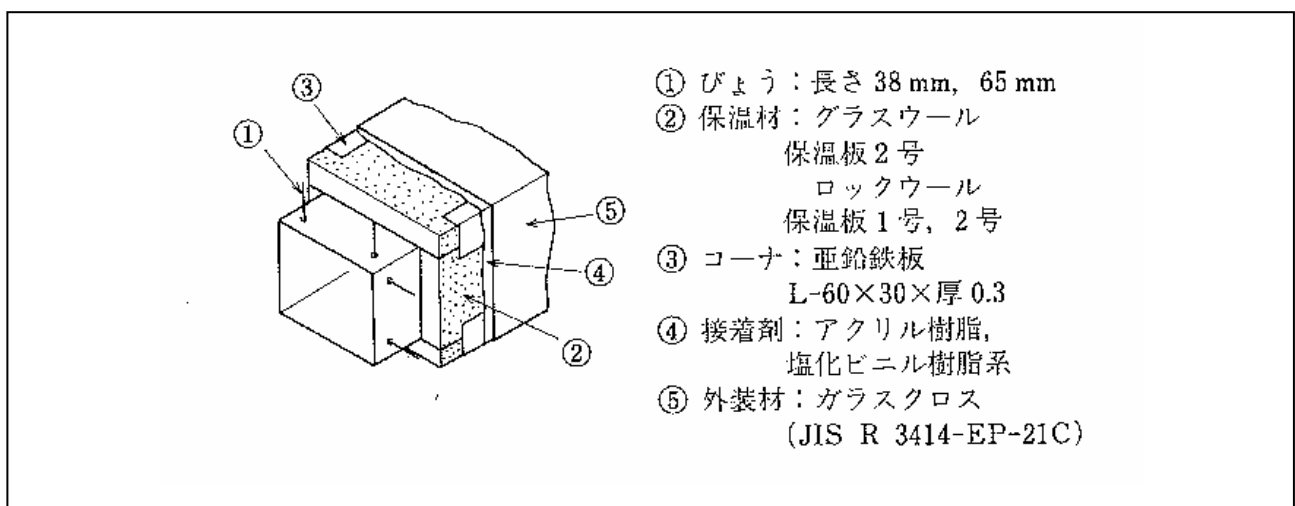
接着鋸、及びスポット溶接鋸とも座金を取付け、鋸の先端を折り曲げるが、強く折り曲げると保温厚さを減じるおそれがあるのでワッシャーの使用が望ましい。

ダクト保温材の外装材としてはアルミガラスクロスが一般的である。

図 1 に一般空調用角ダクトの保温施工の例を示す。

【 図 】

図 1 角ダクトの保温施工例



出典：空気調和・衛生工学便覧 第 13 版 第 5 巻（材料・施工・維持管理篇）、2001 年 11 月 30 日、
社団法人空気調和・衛生工学会発行、450 頁 図 8・3 一般空調ダクト（屋内露出）

【出典／参考資料】

- ・ 空気調和・衛生工学便覧 第 13 版 第 5 巻（材料・施工・維持管理篇）、2001 年 11 月 30 日、社団法人空気調和・衛生工学会発行、449－450 頁
- ・ 機械設備工事監理指針、平成 13 年版、社団法人公共建築協会発行、2002 年 8 月 25 日、297－301 頁

【技術分類】 3－3－1 2 セントラル空調／ダクト工事／保温施工

【技術名称】 3－3－1 2－2 保温材取付（丸ダクト）

【技術内容】

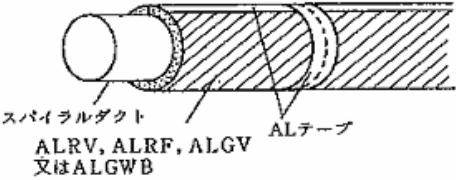
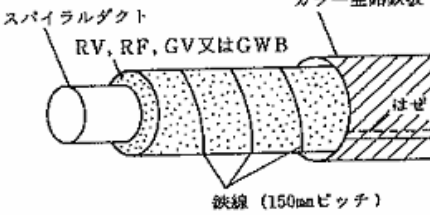
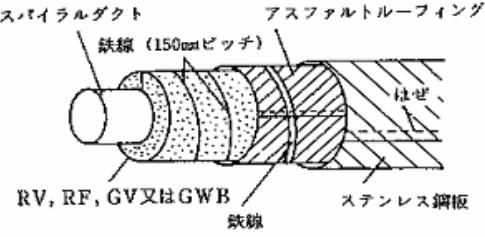
丸ダクト（スパイラルダクト）の場合も、角ダクトと同様に保温施工前にダクトのフランジ部の締め付け及びシールが十分か確認することが必要である。

保温材の固定は鋸固定も行われるが、テープ巻き固定も多い。テープ巻き固定の場合、ロックウール、グラスウール等の半円筒の保温材の外側からアルミガラスクロス粘着テープで巻く施工法が一般的である。

図 1 に丸ダクトの保温施工の例を示す。

【 図 】

図 1 丸ダクトの保温施工例

種別, 施工箇所	材料及び施工順序	施 工 例
N 機械室, 書庫, 倉庫, 屋内隠 ぺい, ダクト シャフト内・	1. ALRV, ALRF, ALGV又はALGWB 2. ALテープ (重ね幅30mm)	
O ₁ 屋内露出 (一般居室, 廊下)	1. RV, RF, GV又は GWB 2. 鉄線 3. カラー亜鉛鉄板 (厚さ0.35mm)	
P ₃ 屋外露出 (パ ルコニー, 開 放廊下を含 む。) 及び浴 室, 厨房等の 多湿箇所 (厨 房の天井内は 含まない。)	1. RV, RF, GV又は GWB 2. 鉄線 3. アスファルトルー フィング (重ね幅30mm) 4. 鉄線 5. ステンレス鋼板 (SUS304 厚さ 0.3mm以上NO2B 程度)	

出典：機械設備工事監理指針（平成 16 年版）、2005 年 2 月 26 日、社団法人公共建築協会発行、314 頁 表 3.1.9 各施工箇所の材料及び施工順序（抜粋）

【出典／参考資料】

・機械設備工事監理指針(平成 16 年版)、2005 年 2 月 26 日、社団法人公共建築協会発行、309－314 頁